

平成23年度上水道事業会計当初予算(案)の概要

I 予算のすがた

収益的支出と資本的支出を合わせた予算総額は、1,157億67百万円となり、前年度に比べ、42億27百万円、3.8%の増加となっています。

収益的収入が前年度に比べ7億54百万円減の723億42百万円に対して、収益的支出が前年度に比べ12億29百万円減の675億56百万円であり、その結果、純利益は、前年度並みの34億4百万円となりました。

(単位:百万円)(税込み)

区 分	23年度 当初予算案 ①	22年度 当初予算額 ②	対前年度比較		備 考	
			増減額 (①-②)③	比 率 ③/②		
収 益 的 収 支	収益的収入	72,342	73,096	△ 754	△ 1.0 %	給水収益 65,177
	収益的支出	67,556	68,785	△1,229	△ 1.8 %	給水申込納付金 3,510 人件費 8,690 減価償却費 20,743 支払利息 4,678
	収支差益	4,786	4,311	475	11.0 %	
	消費税資本的 収支調整額等	△1,382	△1,182	△ 200	16.9 %	
	純利益	3,404	3,129	275	8.8 %	
資 本 的 収 支	資本的収入	15,291	10,828	4,463	41.2 %	企業債 8,054 国庫補助金 2,302
	資本的支出	48,211	42,755	5,456	12.8 %	建設事業費 32,262 企業債償還金 8,468 有価証券取得費 5,000
	収支差	△ 32,920	△ 31,927	△ 993	3.1 %	
	支出予算総額	115,767	111,540	4,227	3.8 %	

※資本的収支における32,920百万円の不足額は、消費税資本的収支調整額1,382百万円、過年度及び当年度損益勘定留保資金(減価償却費など)31,538百万円で補てんします。

[企業債残高の状況]

平成23年度末の企業債残高は、前年度に比べ4億14百万円減少し、2,012億4百万円となる見込みです。

(単位:百万円)

22年度末残高見込 A	23年度当初予算案			23年度末残高見込 A+D
	借入額 B	償還額 C	差引 D=B-C	
201,618	8,054	8,468	△414	201,204

II 主要事業の概要

中期経営計画 2011(計画期間:23~27年度 23年3月策定予定)の素案に掲げた5つの目標に沿って事業を推進します。

目標1 安全で良質なおいしい水をいつでも供給できる水道

◎水源の安定化(ダム建設事業等に係る水源分担金)	85億17百万円
○湯西川ダム	72億37百万円
工期:昭和57から平成23年度	建設事業の当局負担率18.5%
○ハッ場ダム	8億29百万円
工期:昭和42から平成27年度	建設事業の当局負担率3.3%
◎浄・給水場の設備等の更新	31億31百万円
○北総浄水場ポンプ用電気設備更新工事	6億97百万円
○北船橋給水場ポンプ用電気設備更新工事	6億 1百万円
○成田給水場電気室棟電気設備更新工事	6億80百万円
○次亜塩素酸ナトリウム注入設備(柏井浄水場東側)設計業務	17百万円
液化塩素注入設備から取り扱いの容易な次亜塩素酸ナトリウム注入設備に順次転換していく。	
○浄給水場耐震化改修設計業務	27百万円
栗山浄水場、船橋給水場	
◎管路の整備・更新	173億76百万円
○鋳鉄管更新工事	90億45百万円
更新時期を迎える配水管の増加に対応して、計画的に更新工事を実施する。	
布設延長 60.8km	
○送配水施設建設工事	27億円
安定給水確保のための管路の新設及びニュータウン事業の伸展に伴う管路の新設を行う。	
第二北総~成田線送水管布設事業(布設延長 3.1km:13億81百万円)	
千葉ニュータウン線(布設延長 5.2km:11億95百万円)	
○公共関連等配水管整備工事	34億95百万円
外環道等の公共工事に際して支障となる既設管の移設等を行う。	
外環道関連工事(布設延長 2.8km:15億52百万円)	
都市計画道路関連工事(布設延長 0.1km:1億21百万円)	
下水道等関連工事(布設延長 13.3km:18億22百万円)	

◎おいしい水づくりの推進	98百万円
○残留塩素の低減化	31百万円
平均0.4mg/l以下（27年度目標）を目指して低減化に取り組む。	
・連続測定装置による残留塩素濃度の測定	10百万円
・塩素多点注入の推進	16百万円
園生, 菅田給水場に次亜塩素酸ナトリウム注入設備を導入するための実施設計	
・受水槽内塩素消費量実態調査	5百万円
塩素注入管理のための基礎データの収集・分析	
○安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン等	28百万円
・PRグッズ製作	
・小学校等における水道出前講座	
・ウォーターメイト（水質モニター）による蛇口水質モニタリング・意見交換	

目標2 行き届いたサービスと高い技術力でお客様に奉仕する水道

○広聴・広報事業	53百万円
県水だよりの発行、インターネットモニター等調査業務	
○体験型水道技術研修	1百万円
新規採用者や他部局転入者を対象に、仕切り弁操作、洗浄作業等の技術研修を実施する。	

目標3 地震等の非常時にも強い水道

○応急用資機材等の備蓄	16百万円
非常用飲料水（アルミボトル水）、非常用飲料水袋等	
○災害時支援協力員制度	1百万円
水道局OBを活用した地震や大規模な事故発生時の支援協力員制度を開始する。	

目標4 環境に優しい水道

○浄水場発生土処理	4億15百万円
浄水工程において発生する汚泥を、セメント原材料や緑化培養土としてリサイクルする。	

目標5 安定した経営を持続できる水道

○情報化の推進

19億77百万円

現在運用中の20の情報システムについて使用機器類の共通化・管理の一元化を推進し、業務能率向上及びコスト抑制を図る。

○2年国債による資金運用

50億円

今後の建設事業費増加時の補てん財源に充てる資金の一部を、2年国債で運用する。